

日記

一九三〇年（昭和五年）

宮本百合子

青空文庫

一月一日 水

モスクワの正月のしじまいだ。遊びじまいをした。

一月四日 土

オリガ・ヤコブレナが散歩に誘う。コロス〔映画館名〕へ行ったら一寸でおくれ、ずっと四角く歩いて家へゆき、狼と羊などして遊んだ。

一月五日 日

酒匂さんのところへ最後に集る。極めて少数。犬伏君大いに力を入れてアホダラと謡曲をやった。主人公皆に浮き立って欲しかったらしいがそううまく行かず。

一月六日 月

午後六時四十分酒匂さん夫婦出立。はじめ大キーツスキーへよって停車場へ送った。見送人多勢。柵の外の間人間が珍しそうに多勢の日本人を眺めて居た。自分達これで一役すま

した感じだ。

一月九日 木

一九〇五年の一月九日の記念のためにゴルキーの夕をやった。ラリサ・レイスネルの夫だったラスコーリニコフ開会の辞。ラスコーリニコフ若いときは暖いよい若者だったろう。これとラデックと比較すると渋さが違い、面白いと思った。

一九〇五年の一月九日の四人朗読非常によかった。

今日やつとビザがもらえた。三カ月だ。

一月十日 金

きんさん夫妻が来た。あすこ、それから御雑煮をたべた。

一月十一日 土

きんさんのところへゆく。

一月十二日 日

桜木さんが来た。いろんなアニエクトート〔逸話〕をきいた。

K、ローマから手紙。もう一月六日に日本へ立ってしまった！ 何だ！ 何のために出てきたのだ。バカ！

一月十三日 月

ソブレメンヌイ・ポエジーへ行った。なかなか面白い。かえりに馬車へのった。

一月十四日 火

芸術座でツアーリ・フィヨードル〔「フィヨードル皇帝」〕を見た。これはモスクビンだが、ボリスをやる男が柔いのでフィヨードル引き立たず、惜しかった。このボリスより第二のイワン・グロースヌイ〔「イワン雷帝」〕のボリスの方が効果的だった。

Yのところへ先生が来るというので出かけてMoscowまわりをしたが待ちぼうけだった。

一月十六日 木

オリガ・ヤーコブレブナが来て夜すっかり話した。六時すぎ先生が来るというので仕方なくべこ出かけて活動を見た。（アンチミリタリズムの）

かえって仕事しようとして居たらオリガさんが居て実は悄^{しよげ}気^けた。

一月十七日 金

マールイ・テアトルへ、貧は罪ナラズを見にゆく。下らぬ。皆それでも泣いて居た。メデタシメデタシ。

Y、先生。自分パッサージへ行つて、クロプイ〔南京虫〕の薬かつて、上靴を買った。

一月十八日 土

天羽さんのところへ夜よばれた。

洗濯をとつて渡して来た。こんどの支那人は、若い夫婦で心持よかつた。それから一人でもやフレスチャーノヴィツチへ行つて留守。手紙だけおいて来た。

一月十九日 日

もや一人氷すべりに行つた。オリガさんと。靴がわるくてすべれず閉口した由。夜又出
かけ彼女のところでおそくまで居た。自分一人不動さんの見舞に花をもって出かけた。
自分あの病院の門をくぐるときのいやさ！

一月二十日 月

オリガさん妹、我々、ワフタンゴフでシルレルの翻訳を見る。ワフタンゴフはいつも気
どつて玩具的な舞台装置に煩わされて居る。

一月二十一日 火

Y 稽古。自分トレチャコフスキー〔美術館名〕へ出かけ、道を間違えて氷った河を渡り、
氷に穴をあけて洗濯して居るのを見たりした。

面白かった。但、買いたい近代のエハガキはない。

Y、油橋さんのところへ質問に出かけた、留守だった。

一月二十二日 水

小松原さんのところへ行った。かえりにY、オリガさんのところへよる。
自分かえって仕事。

一月二十三日 木

Y、稽古。自分その展覧会を見に行ったら、子供の為の古代ギリシア生活展覧会があ
って面白く、儲かった。

Y、散歩したぎり、自分仕事。

一月二十四日 金

オリガ・ヤコブレブナが来た。

一月二十五日 土

油、河さんの細君。

夜、教師。べこ、活動。

一月二十六日 日

もや理髪。

宮川さん。

家へかえってものをよんで、夜ホテルへ行った。

一月二十八日 火

今日は一日家に居た。

自分少し風邪ぞみだ。夜オリガさんのところへ出かけて、二時頃歩いてかえった。

一月二十九日 水

Y、稽古、自分歩いてポストで予約して買物して歩いて家までかえった。

一月三十日 木

Y、ひとりオリガさんのところへ出かけた。

この頃Y、ずっと一日平均五枚ずつやって居る。さあ、今日の分かせげたと云ってよろこぶなり。

一月三十一日 金

自分風邪ぎみ。Y、教師。自分散歩だけしてかえる。今日久しぶりでモスクワ寒し。二人とも籠居。仕事。

二月一日 土

仕事。

二月二日 日

藤塚さんの送別のためにサヴオイで午餐をした。たかくて、塩からくていやだった。オリガさんが来るというので、いそいでTaxiで馬場さんに送られてかえったら、来て居ず。

二月三日 月

仕事休（停電）

大使館でスエ子の手紙。林町からの手紙。中井さんからの手紙。

最大のNewsは網野さんが結婚して奉天へ行ったということだ。

万歳！ 万歳！ 何しろ生活は停滞ほどわるいものなしだから結構結構。

夜、オリガさんが一時すぎまで居た。

二月四日 火

夜光子さんが来るといったが来ず。

べこ少しおなかの具合わるく、悄気ておとなしくなった。然しそんな具合でどの位仕事出来るかやって見よと、ウージン「夕食」までやった。少々。

○朝日が照った。Y、べこをつれ出して写真をとった。

二月五日 水

教師来た。

今日は自分気分がわるいので、食堂に坐つて居て外出せず。

夜、馬場さんのところまでYと二人で歩いて行つた。かえりは馬車。

二月六日 木

きのう、Yつたら私に食べるなよこちゃんと盛に云つて居て、自分はうつかり食つたので工合わるがつて黄色い顔して半日以上床に居た。Y、一日出ず。自分夕方散歩した。一文もたず——故に今日は一文もつかわずか。

下宿に払う。

二月七日 金

今日は教師夜来る日なり。一日仕事をしてチャーリ〔映画館の名〕へ行つて、ハロルド・ロイドの大古ものを見て来た。然しやつぱり五十銭分の笑いはあった。

二月八日 土

べこは一日籠城。

朝食をして居た時から五時すぎ o b e d をするまで河岸の新しい家の火事がつづいた。これはクレムリンの中が引越して来る筈の新建築。

Y、ひとりオブラゾワーニエ行。ボリナ・チャストニコフ〔自由個人商人の意〕で気が荒くなって居る由。

牛乳来ず。

二月九日 日

昨夜——ねたのは朝五時だった。故に一時頃おき、食後出かけ、近藤さんの奥さんの様子を見、本やドーム・ゲルツエナ〔ゲルツエンの家〕へ行ったら、作家クラブはY、〔数字分空白〕だといひるのでそこへ行き、アンケートを書いて来た。寒い。牛乳なし。この頃、食糧がなかなかひっばくして来た。

二月十日 月

今日はひどい寒さ。

○旅行記パスせず。オヤオヤ九十三枚手習いか！

自分プレハーノフを引く仕事をさずかる。ありがたし。
もや、おできにて閉口す。

二月十一日 火

もやはおできにてまるで悄気かえつて居る。顔の、口のよこと左ほつぺたと二ところ。

二月十三日 木

今日は自分の誕生日。家じゅうの人ともやがかかっていろいろ出来るだけのことをしてくれた。夜十人ばかり集り、それでも賑やかだった。去年は病院、一昨年はホテル。今年が一番いい部だった。

二月十四日 金

もやのデキもの少しよし。やつと汁を出しかけたのなり。
自何だか肩が張って困る。

夜オリガさんのところへ行つた。嫉妬という活動をべこ一人見た。下らぬ。ところがそ

れがウエルネル・クラウドとプティであつた。扱いかたがまるで心に訴えて来ないのだ。

二月十五日 土

ガウズネルさんとキム夫妻がお茶に来る。

もやのできもの大分よろしい。

二月十六日 日

野崎さんがレーニンググランドより来たので起こされる。彼一日座ってる。

夜、三人で出かけて「以下空白」

二月二十二日 土

南京虫にくわれたあとがかゆかったのをかいたら、はれていたくなった。(Y)

二月二十三日 日

朝起きがいたくてこまるよし、横になって雪でひやした。

もうずっとコムナール〔国営の食堂兼食料品店〕の果物のところに煙草が置いてある。そのタバコもナーシャマルカ〔わが国の商品〕、デリ、その他、モッセルプロムは時々だけ。

二月二十四日 月

もや一日臥床。いたがって心配してひす起して、べこは閉口した。

二月二十五日 火

もや今日は起床。

IKBYの診療所へ行ったがどうも大したことないらしい（つまりはつきり診断されず）

夜、メイエルホリド見物。野崎さんに会って一緒にかえった。

二月二十六日 水

今日 マルタ・アンドレーヴナ

川谷さんの細君

二月二十七日 木

川谷さんによばれて、出かけて鯛をたべた。

二月二十八日 金

今朝、宮島さんがジェネワへ行くのでよった。自分 station へ迎えに行った。一日居て、夜送ってゆく。

つかれた。

あっちこっち見せ、よかった。

始めてミモサの花を見た。

三月一日 土

今日夜おせんこが来た。

ベコは油橋さんにスピルトップカ「アルコールランプ」をかえしてソヴキノでニューヨークのドック、日本では何とか云った題を見た。

アメリカにある甘さを一寸うまくこなして機械なども出し相当よかった。技巧だな。筋より。

三月三日 月

おせんこ。ベコは歩いて洗濯屋へ洗濯ものにおいて、郵便局へよって書留を出した。
暖かくまるで春だ。まぶしくてつかれた。

三月四日 火

今日野崎さんがかえると云ってやって来た。обед「昼食」を一緒に食べた。

夜オリガさんのところへ行く。オリガさんドム・ウプラブレーニエ「アパート管理部」のセクレタリ「書記」（無料）で電燈計算をやって居た。一まために書き出す。それを各自燈数にわけて金を集めるのだ。水道では人員。

三月五日 水

メイエルホリドへウイストレルの切符を買いに出かけた。かえりにニキーツキーまで歩き、少し横つばらの工合わるく閉口した。

モスクワの早い雪どけ。どんなに紳士的に歩いても、靴の周囲十センチメートルは危険区域をつくる。自動車は夕立のような音をたてて水をしばいて走った。

三月六日 木

八日の女の日にはテクスチーリヌイ〔紡織工場〕工場とクラブを見たい。B O K C へ行った。アルバート〔骨董品、古本屋の多い街路〕まで、Y 一緒。今日ソヴヰキノにモスクワ第一回目発声映画が封切だ。もううり切れで買えず。

やはり暖いが少し寒くなったブルワール〔並木道〕で女芸人がコバルトの綿入胴着で腕や肩をまる出しにし、休むとき涙をきたないハンケチでふき乍らとんぼがえり、銀貨を逆さに、体をひっくりかえして口でとる芸当その他やってる。とり肌でやってる。バイオリンとガルモシユカ〔アコーデオン〕。誰も手をたたかぬ。ピカーントヌイ〔同情をそそる〕なのだ。金を皆がやる。後の女が「アニー、ジャレーユト」〔彼等は同情している〕

と云った。

三月七日 金

今日は朝っぱらから椅子のこわれに右の薬指をはさんでひどく血をふき出させて、その時より夜痛み、本ものの仕事出来ず。

きのう、この室を出なければならなかったと親爺が云って来た。第一本のしまつだ。Yタイプライターで送る分のリストをつくった。

又寒くなった。窓から赤いプロツカート「ポスター」がパタパタして居るのが見える。その裏は白い。白い裏なんか変だが白くてパタパタした。

三月八日 土

夜天羽さんのところ。だが今日は女の日故きのうB O K Cから電話がかかったクラブ・クフミンストルヴァへ出かけた。

ドクラード（五年計画を中心としたもの）それからT P A M（労働青年劇場）の芝居。一時頃ひどくすべる路を天羽さんのところへ出かけ、三時まで居た。ここはちつとも面白

からず。今年の Женский День〔婦人デー〕は五年計画と関係して、独特の意味があった。例年のような陽気なお祝ではなく、もっと緊張して。

三月九日 日

起きて自分顔を洗って居たらオリガさん来。家のことを話したら、つまりここのおやじがよいなプロシチャージ〔面積〕をとって居る為こわがって居るのだろうということ。それに外国人でよい金をとってるから。何とかして見ようとの話。

サボイで近藤さんに御飯。二時頃かえりねる。

自分金曜日に椅子でつめた指痛くはないが押すと血が出る。

三月十日 月

先生。

出かけ、髪をきり、床屋の話をきく。麦酒の麴をかってかえった。レモン、今日はコムナールにもない。コムナールの食物のところ空々で空の木箱が置いてある。

この頃道がひどい。出て靴下をよごさぬことは不可能だ。洗いたい。指がわるくて洗え

ぬ。不自由この上なし。

ウイストレルを見た。Ｙ面白くないと云い、自分もその時満足しなかったが、あとで思い出すと、やはり印象にのこってるものあり。

三月十一日 火

窓から公園を見たら小さい湖のようだった。寺のまわりを歩く。何遍も歩いてへばってしまった。Ｙ本屋へゆき、やっと五時にかえって来て食事。

○この頃魚のカンヅメがいつも夜出る。いろんな魚だがトマト煮だ。どれもこれもトマトにたたき込んである。

三月十二日 水

今日はもうすつかりとけ、モスクワは洗濯水に浸ったようだ。その中を鉄のファイルボックスみたいな応急自動車が赤十字をつけて走る。

○午後二時前後、小学校の始めの小さい組がかえる時間。アルバート附近のドヴォール「中庭」、湖のように雪解水に浸り、樹はそろそろめぐみ、一種の美しさだ。新しいコオ

ペラチーブ「協同組合住宅」にはこのモスクワのドヴォールの感じなし。レーニングラードにもない。街にはオーチェレジ「行列」。

チエボー、スタイーチェ？「なぜ立っているんですか」
ザ、ルイブ！「魚のためですよ」

三月十三日 木

この頃バターが食える。

三月十四日 金

ワフタンゴフへ ナ・クロビを見た。

これは面白かった。一寸ワフタンゴフごのみのところでもないがおもしろかった。

○イズヴェスチャにエフィモフが фокус польской дефензи
ВЫ「ポーランド保安隊のペテン」という題で、「СССРより農民群の逃亡」という
題で書いたポーランド新聞を諷して居る。

うちの細君、サリヨヌイ・ミヤーソ「塩漬の肉」を買わされて来て、どんなに食える

かまだ分らぬと閉口して居る。

三月十五日 土

朝お堂のまわりをぐるぐるまわった。一周り一町余あるな。

かえってから仕事。Y、新聞からいろいろコルホーズのエピソードその他話してそれを自分が書き、一寸面白かった。

○アホートヌイ〔アホートヌイ・リヤード、現在のカール・マルクス大通り〕に又百姓がそろそろものうりに出かけて来た。政府が許すようになったのだ。細君が見て居たら、一フントのバター5p、テリヤーチナ〔子牛肉〕の足一本十五留^{ループル}して居た由。

三月十六日 日

今日は郊外へ家を見に行こうとしたら、もう二時だのに電車は来ず、天気は思わしくないしするのでお堂のまわりを半まわりして家へ帰って来てしまった。ひどい風だ。

Y、もう少しで仕事がすむというので元氣のよいことお話しにならず。自分ももう少しだ。夜Y、オリガさんのところへ一人で出かけた。

三月十七日 月

今日はあつちこつちの芝居の切符買いで、昼じゅうつぶしてしまった。

おせん来。

夜アイーダ。二人はオペラよりキノ「映画」がすきということに結論した。

三月十八日 火

○いつかトウエルフスカヤ「街路名、現在のゴーリキー通り」で買って食べてすすかりすきになった魚のくんせいしたのはオーブラという。元はひどい貧民の食物とされてた。

三月二十日 木

Y、ゴーリキーの幼年を一先ず終った。

自分、「ロンドン一九二九年」を。

Y、夜オリガさんのところ。

○この頃三四日おやじの顔を見ないと思ったら、今日鼻を赤くして、しよぼんとして居

る。「カーク、ヴィ、チューストヴェチエ、セビヤー？」〔具合はいかがですか〕「ニエ
ワージュノ」「よくない」そしたら夜室へ入って来て、何日出るかはつきりした日をしら
せてくれ、新聞に出されたりするとやり切れぬ。別の доме р〔借室〕へはコオペラ
チーブのウダルニク〔突撃作業班員〕が来てツェールイ・リヤード〔一連の〕の不愉快が
あつたと云う。我々30日までに出ることにした。

三月二十一日 金

今日は休みというわけ。

自分大使館へ行つてザボールナヤ・クニーシュカ〔配給通帳〕のための証明を書いて貰
う。夜油橋さんのところ。

パッサージへ行つたが、カントーラ〔事務所〕の人別な男で、二十日までに室あるかど
うか分らぬ。27日に来いと云う。

三月二十二日 土

本の始末。大いそがしだ。Y、タイプライターを打って、ベコは小包を作って。

夜猶太劇場。

三月二十三日 日

この頃、又アホートヌイに百姓がもの売りに出ることを許されて、ひどい人と云つたらお話にならず。

コオペラティブではレモンも何もないのに、道ばたで百姓女がレモンをもってる。彼等がどこから手に入れて来るのか、それがないと供給しきれぬところ、やっぱり百姓め、なかなかどうして急所をにぎつて居る。

今日小包を五つ送り出した。秀雄さん宛。

三月二十四日 月

おくれかけていそいでメイエルホリドへ出かけたら、今日はどつかのザブコム〔工場委員会〕の総見だというので切符代をかえされた。二十八日に買いかえた。

Y、桜木さんのところへゆき、サヴオイへ行つて、かえつて来る。自分原稿の手入れ。川谷さんから貰った餅を夜煮てたべる。

Yのところへ送金したという電報秀さんより。

○自分雑誌の切りぬきをやってる。

三月二十五日 火

海外ニュース（と云つても或見地をもった）にチャストーシカ〔四行詩の俗謡〕をつけてポーランドのミリタリズムを見せるところなど凄いぞ。まだただ音が明瞭でないのがわるい。

○原稿を石川さんにたのんで送った。

ボリス・ゴドノフを見る。この方がずっとアイデアよりよろしい。（ただ終りにYの意見によるとつけたらしい、アンティポリスキノ・ベズボージュニク〔反ポーランド無神論者〕、プロレタリア・カラー的のものがある。）Y、オペラだとなつまらながつて、間にも本を読んで居る。Yのほかにそういう女二三人居た。この神経の感じ。Yもその点ではソヴェトスカヤ〔ソビエト女〕だ。

又パッサージへよつて見る。又別な男。やつとカレンダーへ名を書き入れてくれた。

三月二十六日 水

今日は目ざましがなかったところへ教師にやって来られて、Y、まごついた揚句怒った。それで自分も怒って居るところへ、タイプライターを打ったら、どうだこうだですっかりけんかした。Y、帰れ！どこへでも行つて暮せ！そんな奴と住んでる必要なんかないんだ。

自分だつてそれは同じだ、そう腹を立てた。

夜独りでロシアの所謂ズコボーイ・フィルム「トーキー」を見た。ロシアではまだ下手だが、例の写真のうまいところへ音を入れ、五年計画のことなんか、実に感じて打つて来るものをつくつて居る。これで上手になればしめたものだ。

パッサージが駄目だと閉口故、セレクト「ホテルの名」へ行つて三谷氏にきいたら、一日前でどの室でもよければあるとのこと。

三月二十八日 金

ひどい天気、泥海だ。

おせんこ。ベコはナルコムプロス〔教育人民委員部〕へ行つて、家へかえつてから A O M C〔モスクワ・ソビエトの行政部〕へ出かけ O Г О Н Ё К〔雑誌『灯』社〕へ出かけ、チェホフのあまりをとつてパツサージへ室をききに出かけ、かえりに大使館へよつて箱をきいた。そして家。路がきたない。つかれた。

Y はナルコムプロスから運送やをさがしてうろつき、かえつた。しかしすべて順に行つてよかった。

メイエルホリドで新作「バーニヤ」を見た。

四月四日 金

柏木さんのところへ出かけ御飯をたべた。

四月五日 土

M O T O T へもや出かけた。

それからナルコムプロスへ行つて又ステーションへ行つた。

自分机の上をすっかり、いるものを出してそれから食事、理髪へ行つた。

四月六日 日

もやステーションへ行つて送り出した本の箱へ宛名をかいて来た。

アホートヌイまで一緒に行つて、ベコは買もの。夜メリーさんのところへ行つて喋った。

四月八日 火

もう暖く、往來はまでかわいた。

ガローシ「オーバー・シューズ」なしだ。女は早速春外套やスーツであるいてる。

四月九日 火

ホテル暮しの間は朝八時に起きようという約束が出来て、然し今日はねむくて九時少し過ぎ。

テアトラリヌイ「街路名」を明かにモスクワ人ではない若い男が素頭に白靴でぶらぶらして居た。手に新聞と何かたべものの紙包をもって。まるでクロールト「保養地」のような感じだった。彼のまわりにクロールトがあるようだった。

四月十日 木

今日職人が来て窓をあけた。パテをはがして。ところが外側がしめって、ふくれて開かぬ。盛にチョルト「畜生」をやって居ると思つたらあかないのだ。

朝起き三文の徳アリ。女中三番が今空くというので、カントーラへかけつけてやつと日の当る室へ引越した。それから、近藤夫人とキモノを縫う。婆さんのところへ行つてかえつてお別れ。夜、ГОТОВ〔国立歌劇舞踊劇場〕第一へ行つて「アペルシンの三つの恋」を見た。おとぎ話だが、あんなものを新上演する気がしれず。

四月十一日 金

電車を間違えてぐるぐるまわりをしつつフミンストルワ・クラブへ行つて切符かつて、アルバートへ行つて油橋さんに会つて、それから歩いて家までかえつた。

四月十三日 日

この頃朝起きると買いものに出る。九時すぎ。それから、茶をのみ、何か始める。

99



10

今日は朝アホートヌイですっかり市場が出て居るのを見物し、胡瓜その他を買って二時間後Yと行ったらもう何一つ影をかくし、巡査が多勢いて一寸人がかたまると、プロドイガーエチエシ「行つた、行つた」とやつてゐる。この変化に自分は愕いた。興味を起してアルバートへゆく。ここは沢山の人の。

夜フートボーリスト。馬場君知つた女が出るといふので、批評も何となくいい心持になつてゐる。

今日は我々の記念日だつた。忘れて五月三日に思い出しよみなおした。

四月十四日 月

先生。自分卓子でBOOKへ持つてゆくリストの調べをした。

それから自分ニアリングの教育に関する本をよみ、面白かつた。いろいろ知識を得る。

夜十時からオリガさんのところ。かえりのbyc「バス」の中でけんかが起つて、証人になつて呉れと云われたと云つてY亢奮してかえる。自分がルガーチ「ののしる」ないでひとの証人ならまだよいと笑つた。

四月十五日 火

○BOKC からかえりに十六日の切符を買った。

○自分、Y になおして貰ってリストを又タイプライターで打ちなおした。

そして持って BOKC へ出かけた。

夜革命劇場。そこでパルトビレートを見て居たときイズヴェステシア〔ニュース〕でマヤコフスキーの死を知った。これは意外で、となりに居た太った男も愕いて居た。

四月十六日 水

Y、ケイコ。自分女中室へ行ったり、廊下へ逃げたりしてコルホーズをよんだ。

BOKC へ行って紹介を貰って油橋さんをさそってファブリカ・クーフニヤ〔調理工場〕に行つて見せて貰った。この辺には一つもこういうものがないのだから労働者にとつてどの位よいか分らず。これ一つで理想的とはゆかぬが、これが各区に一つか二つずつ出来て来ると大したものだ。かえりに三人で仕立屋へやる。そして腹を立てた。夜レーニングラード作家の夕べにゆく。かえりに К л у б п и с а т е л е й〔作家クラブ〕でマヤコフスキーの告別に連る。夜十二時。

四月十七日 木

今朝は下らないことから二人とも怒って、自分がいやに本気なことを言い出し、二時間ばかりつぶしてしまった。そんなこと——Yがヨケイものだ、と云ったことの底にはYが自分が持つて居るような生活への焦慮を感じて居ないことに対する憤りがあったのだ。それから仲なおりし、Yは、マヤコフスキーの死についての報告をかき始め、自分芝居の印象などまとめて居るころに仕事しなくなつた。

夜、Y一人でおく為、自分桜木さんのところへ行つたが留守。シャノアール〔映画館名〕で「お前誰だ」を見た。

四月十八日 金

朝B O R Cへ集つてクレムリンの見物。なかなかよいものを持つて居る。レーニングラードのエルミタージュ〔歴史芸術博物館〕は、宝石、金が見事だが、こつちではエマリ〔七宝〕のよいの、衣裳、馬車、その他やはりロシアの皇帝が代々金もちだったことを思わするに充分なものがある。

かえりに近藤さんのところへより、本送り出しの証書渡してかえる。なるだけ外に居たら、Yはひとりでキャベジの香のものなんかつけてた。

夜、Yは家で仕事したいというので、自分いやだったがオリガさんのところへ行つてかえったら、Y、もうウージンして居た。オリガさんYにいろいろこまこま食べるものくれた。

四月十九日 土

今日はパスハ「復活祭」の前日だ。

一昨年フラム・フリスタ・スパシーチェリ「救世主キリスト寺院」の祈りに行つた時分は雪があつて、夜二人で折りかさなつて滑つた。今年はもうすっかり春仕度だ。風。埃。そして自分は数日来の鼻カゼがなおらぬ。

これなら *те мая* 「メーデー」は白服だ。全く。

パンを買うのにどこも売り切れ。やっとキースルイ「すっぱいの」を半フロント五哥^{カペイカ}で買った。近藤さんの夫人に仕立屋へ来て貰つて。工合がよい。オリガさん来。обед^カ休み。

夜二人でルビヤンカ〔地名〕のイワン・グロースのたてた古い小さいいい寺の内を一寸見物し、ミヤソニーツカヤ〔街路名〕を散歩し、茶をのみ、いろいろな面白い話をきいた。

○街によつばらい多し。ぼろを着てフリスタス、ヴォスクレース〔キリストは復活せり〕と唄つて歩いてるものもある。夜三時頃まで、下のラボーチャヤ・モスクワ〔クラブ劇場「労働モスクワ」〕でダンス音楽をやつてた。

四月二十日 日

朝ねぼうをした。

それから自分 B O K C へ行つて、紹介状二つ貰い、明朝監獄見物を約束してかえる。

o b e d それからパン、茶、砂糖を買いに出る。今日ピロージュノエ〔ケーキ〕なんかはグーロチナヤ〔パン屋〕の店に一つもなし。パンは沢山ある。そして人がすくない。やっぱり祭日だ。

四月二十一日 月

アメリカ人と一緒に B O K C から北リフォールマーチーを見に行く。ジェムリヤノイ

ブル「地名」の先で、建物は古いが、内部での生活はまるで他の国に於ける監獄と全然違う。カリドール「廊下」の端はしまつて居るが、売店も自由にゆけるし、理髪も出来るし、勉強はするし、本当に教化を目的として懲罰の意味は少い。

夜、革命劇場にインガを見る。これはパルトビレートよりクラシックだ、быт「風俗」の点で。

四月二十二日 火

天氣がよい。思い立って銀の森へ出かけた。サドーワヤ「環状通り」から十三番へると行ける。松林。畑、いい心持だ。草の上にねころんだ。毛布をもって行つて。

かえりにメイエルホリドでクロープの切符二枚買った。

四月二十三日 水

○中央児童図書館へ行つたらしまつてゐる。

○ルケアーノフへ行つたらしまつてゐる。

○ドヴォールニク「門番」の女房が室をかしてもよいと云つた。

かえりに T・M・Γ・y で “che x” 「「ボヘミヤ人」」というグループの絵の展覽会を見る。そして、いかにソシアリズムが絵に吸収されることの困難なのかを感じた。ひどい。この間ラボーチャヤ・モスクワにあった独習画家展の方ずっと面白し。

○夜一人でメイエルホリドのクロープを見に行つた。マヤコフスキーの作品の観念的なところが（バーニヤにあった）ここにもある。よきドラマチストになれぬところが現れて居る。ただ一九八〇年に甦つた男の孤独感が、マヤコフスキーが死んだ後なので、或感じを与えた。

四月二十四日 木

中央児童図書館へ行く。

ここでは児童のための読みもの選択、忠告、並にヤースリ「託児所」の仕事までやって居る。ただ読むためばかりでなく、モスクワの住宅難から来る子供の遊び場、仕事場補充までやって居る。ソヴェトに未だよき児童文学作家なし。

夜、スタニスラフスキーのピーコワヤ・ダーマ「「スペードの女王」」。Y、工合がわるいので家に居ると云い、自分一人出かけたならYも来た。三幕まで見てY苦しがるので二

人でかえってYにコムプレスをして、「以下空白」

四月二十五日 金

今日Y、大分工合わるく一日床に居た。朝五時すぎ目をさまし、昨夜のコムプレスをとる。二分おき位にせきをしてはタンをとる。

自分仕立やへ行つて、近藤さんへよつて、新聞をかってかえる。

夕方、オリガさん来。ドベロフスキー薬を教えて貰つて買いに行く。それはきいた。Y、せきをしなくなった。

○アメリカのジャズとソヴェートのジャズは全然違ったモチーフ「モチーフ」の上にあるべきだ。シヨスタコビツチの音楽をもっと知りたい。

四月二十六日 土

島田さんが夜よんでくれたがYはゆかれず。自分一人。

朝油橋さんの妻君よる。一緒に出かけてYの洗濯ものをとって、川谷さんのところへよつて「□」を見にゆかれぬことを話し「以下空白」

四月二十七日 日

今日はすっかり寒くて、合外套で外を歩いたらぶるぶるだった。風もつよし。

朝美術教育スタンチア〔研究所〕へ行ったところ、どうさがしてもなし。仕方ないので靴やへよって自分の靴をとり、Yのをあずけ、かえる。

○夜、コルシュ。Y、まだ工合わるくて、行くのいやというので自分一人出かけたら、今日はモスソヴェートのザクルイトイ〔買い切り〕だという。それではメイエルホリドへ行つて切符を買おうとしたら金をもって居ない。とつといて貰うことにしてとなりのキノを見た。第二の生、ドイツもの。女優一寸よかったが下らぬ。大体輸入フィルムは（ドイツの）下らぬものが多い。

四月二十九日 火

天長節。

夜メイエルホリドの伯林劇場見物。これは、ドイツのTPAM〔#労働青年劇場〕だそうだが、やっぱりここで見ると歴史的な意味しかない（ドイツの左翼劇として）反抗の

現しかたがまだK的でない、そこまでに行く手前を現して居る。(ブント、ウ、ボスピ
ターチェリヌイ・ドーム「養育院での反乱」)

やつと金がついた。1951.50

五月一日 木

朝、天気が一寸よいようだったが、雲が出てなかなかさむし。十時頃前へ出て見ると、
デモンストレーションが、まだ待つて居るところ。室へかえると、空を十台ばかりの飛行
機が分列式をはじめた。美しい。そのもつと高いところの空を鳶が三羽一生懸命にやっぱ
りあつまつて飛んだり分れてとんだりして居る。午後二人で出かけてポチタ(郵便局)で
秀雄さんの父上の死に弔電を打ち、暫くそこに立つてデモンストレーションを眺めた。5
Л е т к а в 4 г о д а 「五カ年計画を四年で」それから帝国主義とファッシストに
対抗せよ、これが大体今年のスローガンだ。今日はストローワヤ(食堂)早くうり切れな
のでポリシャーヤ(大食堂)へ出かけた。のろいサービスで高くてまずくて腹が立った。
又柏木さんに会い、今日は大人、風邪で^{しよげ}悄気てるので、つき合わされ、夜十二時頃赤い広
場のイルミネーションを見に行った。

○労働宮の美しいイルミネーション

○発電所の美しいイルミネーション

モスクワ川にうつる。それをかきわけて二つのボート。

赤い広場、レーニン廟の板囲いにすっかり絵をかいてレーニズムの旗高く、五年計画を四年で。と赤いイルミネーションがついて居る。向い合いのユニベルマグ〔デパート〕には、帝国主義とファシズムの犠牲者に階級の同胞、プロレタリアのプリヴェート〔挨拶〕を。昔の首切り台の中に労働者が円く立って赤旗を高くかかげて居るつくりものがある。ビザンチン教会の黒い背景、赤い旗。風にはためく赤い旗。テアトラリナヤのマールイ・テアトルの角壁に日本語と支那語で全世界の労働者結合せよ、と青いプロカートが二流下り、この赤い広場にも赤衛軍に革命的な敬礼というプラカートが下って居る。

・数十万の足にふまれたひどい深い砂塵。

・急造の飲料水噴水。

・ラジオの音楽。

五月二日 金

○今日は二日。すべてのキノと芝居は労働者のための無料興行日だ。やっぱりシユーバ「毛皮外套」をきて歩く。

○新聞なし。あいて居る店はアプチェカ「薬局」だけ。ストローワヤもところどころ。道は胸に谷間の姫百合の花や、メーデーの赤い花、ズナチヨーク「バッジ」をつけた人々で一杯だ。本当の祭日。これで天氣がよかつたらどんなによからう。仕立屋へゆく。夜、オリガさん。朝プレハーノフ。

○オリガさん手製カツレツをもって来てくれた。久しぶりの家庭製品美味し。
(きのうも芝居はあいて居た)

五月三日 土

晴、暖。ノーソフ、バラの鉢をもつて来る。きっと自分の家からもつて来たに違いない。ような貧弱な花だがなかなか心持よい。

○朝、プレハーノフ。少々あやしいところが出てきた。ペレウエルゼフがプレハーノフを張ってメンシェビキと云われた。その理由の或ものを理解する。

○Yと二人出かけて、ゴスイズダート「国立図書出版所」で本を買う。この頃少年少女

のために、石炭、トルクシブ〔トルキスタン―シベリヤ鉄道〕、ドニエールストロイ〔ドニエール河建設〕などに関する絵本が出た。これは全然新しい。相当いい本だ。
○買った本。セーフリナの欧州旅行記あり。Y、すぐ食堂でよみ始め、ちよいちよい話してくれる。

○Y、夜十時からオリガさんのところへ出かけた。

五月四日 日

プレハーノフ。

ベチエルナヤ・モスクワ〔『夕刊モスクワ』〕へ家さがしの広告を出して、赤い広場を通って、あのマルクシズムのクラスをさがしたが、もう今年はそこにはない。オーブシチェジーチェ〔寄宿舎〕になって居る。

古い『改造』を見たら、日本のプロ文芸分裂当時の論争がのって居て、興味を感じた。労農芸術の方では社会的註文の原理みたいな変な間違いをして居るし、日本プロ芸術連盟の方では、一寸プロレタリアの中からではなく、プロレタリアに向ってというような間力クをもった理論らしく、やっぱり双方インテリの論争だ。プロレタリア芸術のよいものは

プロレタリアの中からもそれを出させるようにするのが、過渡期的な芸術家の任務だ。

五月五日 月

ДОМ СОВЕТОВ 「ソビエトの家」のメーデーの飾りをとりはずす仕事をやつて
る。寒い。摂氏十度の春。リーパ「菩提樹」の新芽。馬のまつ毛が長い。芸術座のわきの
地下室で裸の支那人が洗濯して居た。空に雲が出た。プーシキン像のウラル大理石の土
台が光った。

みぞれが一寸降った。牛乳を入れて歩いている女の鍋の上に。コムソモール「共産主義
青年同盟」の半ズボンの上に。

夜、もう八時でも明るく、街は白夜の表情をもち始めた。日本女の机の上でボタンのよ
うな形の桃色のバラの花が一輪咲いて居た。そして水色エナメルのヤカンがわきにおいて
ある。

五月六日 火

朝、プレハーノフのわからぬところ、それからマルクシズムの文芸批評ということに話

がなつて、長く話した。

油橋さんの細君来。

どんな女性でもその人のパッションというものはある。それをここではマジヤーンに放散する由。

○マルクシズムは世界観の根本をなすところのプリンスプルだ。|| マルクシズムの芸術論そのものからは芸術は生れぬ。判りきつたこと、然しわかりきらぬこと。

○夜、Yのマヤコフスキーについて話した。クロープとバーニヤのことについて。

五月七日 水

朝、プレハーノフをやる。きのうの分もやる。今朝はうちにパンしかないので、自分茶をのみつつ何もつけぬパンをたべた。

о б е д 後Yと散歩。柏木さんのところ|| □崎さんのところへよる。それから家へ帰り一休みし、もや夜M X A T〔モスクワ芸術座〕のフィガロ。

自分オリガさんとワフタンゴフへ「アバンガリド」相方とも満足だった。

但し、このアバンガリド、コレクティブ〔集団〕に中心をおかず、対立する箇人を中心

をおいたところソヴェトアジとしての欠点があると云う批評にはソグラーズノ〔賛成〕だ。変化も相当あり、センチメンタルなところはなくて、カタージェらし。

五月八日 木

・ 通行人がロシア人としてだけ見える時代。

・ 通行人がCCCP人として見える時。

・ 通行人の中に十五人に一人ずつの職業組合員と更に多数のチレン・コーペラチーブ

〔協同組合員〕とを感じる時代。

・ プレ。昼、二人でYはK・Aへ、自分本やへ。

・ Y、おできが痛い。夜YUのところで遊ぶ、マージャンをして。

・ オリガさん一寸来て、今日はобедをたべない。「ナダエーラ」〔あきた〕と云

って涙を出した。ストローワヤで何年も食事をする生活。少くとも、現在のモスクワのス

トローワヤでは閉口だ。

五月九日 金

Y昨夜よく眠れないと云つて朝ぶらぶら。したがって自分の方もプレは出来ず。『改造』をよみ、日本の文壇の変遷に或興味を覚えた。

オリガさんと室を見にゆく。いわゆるパザールヌイ〔下品な〕、コミツシヨネール〔ブローカー〕で、逆もものにならず。然しその住居、人間がどんなごたごたの中で暮せるかと云う見本を見て来た。家具らしいものなし。布のかたまりや台や、そんなもので室じゅう一杯だ。西洋の家は壁がしつかりしてる。だから猶きれの包のぶくぶくしたのなど目立つ。

○夜馬鹿らしいことで怒つて、Y、自分の目鏡をすっかりこわした。

五月十日 土

朝、Yのおできの手入れ。それから机の上掃除。即ち、おできが大分楽になった証拠なり。

ルケアーノフへゆく。ダーチャー〔別荘〕のことは見込みなし。雨が降つて来る。フラムフリスタの公園はもうすっかり青い。かえり、レモンを買い。自分、目がねなしにまだなれずに工合変だ。しかしめがねのないのもよいと思う。顔の前に常にいたわるものかけ

て居るのは、けんかるとき弱くて仕方がない。

『改造』をよむ。日本勉強なり。村山知義よくなった。そしてイデオロギー的に或清算した後見ゆ。中西伊之助の現代ストライキ講演。

五月十一日 日

二人で本やへ行つた。

Yは先へかえり、自分アルコールをさがしてアルバート、プレチースチエンカ〔街路名〕をうろついたがなし。

オリガさん、五時半に来て九時まで居た。

自分眼鏡なしでやって見ようとしたが逆もつかれてつかれてやり切れず。気持まるで消極的になってしまう。あしたなおしにゆこうとして、Y自分のカバンをさがして代りのガラス見つけた。こわして見つけて、やっと十一だというわけ。夜プレ。自分『改造』で日本勉強をした。

五月十二日 月

Yのおでき殆ど全快。

二人でクズネツキー「古本屋の多い街路名」へゆき、眼鏡をあずけ時計のふたのガラスを入れ、大きな夕立に芸術座の中で会った。

めがねあした出来るのはありがたい。めがねが出来たらもうのそのそはして居ないぞ。いろいろしたいことがあるんだ。

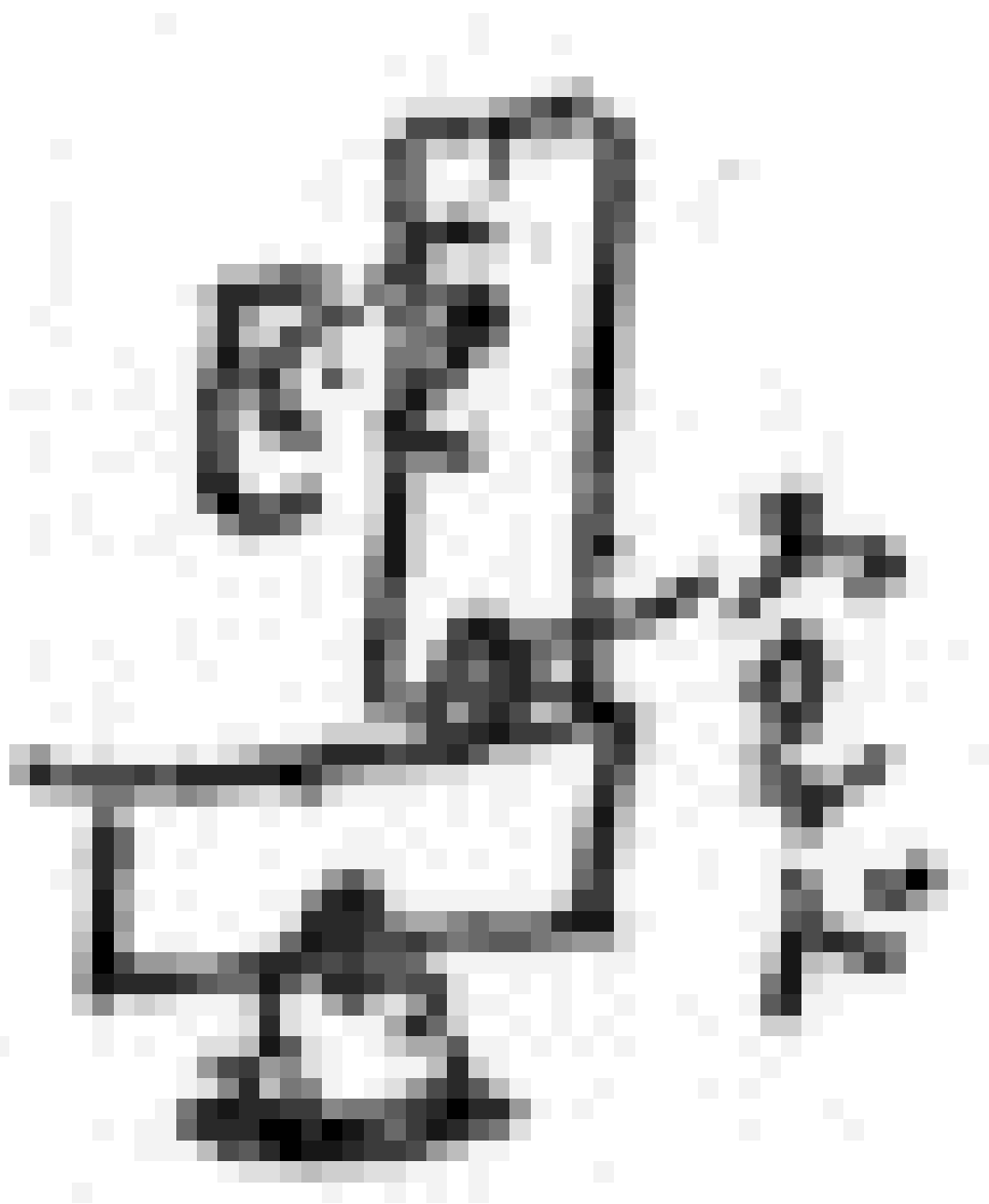
夜、机をこういう形において、非常に都合よく勉強出来るようになった。うれしい。プレハーノフ。

五月十四日 水

眼鏡が出来てすっかり気がしやんとなった。

赤い広場へ出かけてトラム「労働青年劇場」をさがしたが見つからず。それからK・Aへ行つて調べものをたのんで来た。よい晩で、皆極めて春の散歩をやつて居た。夜空九時すぎでも光った藍色で、そこに更に紺ぽい雲が沢山動いてる。

電燈が非常につやをもつて輝く。



五月十五日 木

○朝プレハーノフ。それから自分はK・Kについて一寸勉強。

○この二三日ホテルの食堂のメニュー値上げなり。スープはやっぱり^{カペイカ}50Kと55K。ピロ
ージヌイも30。茶15K。だがスダーク「とげ魚」が55K位だったのだが、75Kになった。
60K位の皿はない。80K 90Kで、アントリコット「ステーキ用の牛肉」は90Kだ。
マースロ「バター」が5Kずつ値上げになった。本もYの話によると2.80位のがもの
によると4.00するよし。

五月十六日 金

○七時に起きることはなかなか困難なり。昨夜かえってねたのは一時すぎ。起きたのは
九時だった。

○朝5 леткаについて勉強、少しはつきりした。

○それから眼鏡を調べさせにモストルグへ行ったらボリクリニキ・セマシコ「セマシコ
病院」へ行けという。行ったら六時から。——一先ずかえる。道々物価調査。モスクワの
ストローワは今スープ25K、あと~~あと~~50Kまでだ。自分達が食べて居た頃はスープ35

K あつ50—8:30だった。

◎今日のおべんはスダークの入ったじやがいもスープ、スダーク、マカロニ、カーシャ「おかゆ」、ソーセージという献立だ。スープ、スダークにマカロニをとり、二人でわけてたべ、夜は早くおながすいて、Yオリガさんへ出かける前、青葱の汁をつくり御飯をたき玉子をかけて日本飯をくった。夜仕事少し。

五月十七日 土

◎朝今日は八時半に起きた。それから眼鏡研究に出かけ、これで間に合わすことにして、Bankへ出かけ、髪を切り、K・Aへ出かけて結局□□ということになる。

まるで春。

五月十九日 月

夜、八時から オソアピアヒム クラブのリトクルジョーク「文学サークル」へ出かけた。カラワーエワとトウミラーエワ（この人は心持よい人だ）が指導して詩をよみ雑誌の小品の批評をやつてなかなか面白かった。十一時半まで。

今日はゲルツェンの家へ出かけた。

五月二十日 火

プレハーノフ。

セルプ・イ・モロト「鎌と槌」工場のことへ出かけたら丁度ゆき違ってクルジョーク〔サークル〕だめだった。

モスクワもこの辺は初めてだ。あつい日。

M X A T のそばの〔Cafe〕と Coffee のんだら日本人に会った。

五月二十一日 水

B O K C、明後日見られることになる。工場トリョフゴールヌイ。袋氏に会う。

G・H・で柏木さんと四人で食事、今日のかえしの意味なり。夜、Yフロ、日本の米をたいた。

朝、プレハーノフ。

五月二十二日 木

この頃の空の美しさ、並木の青さ！ 青さ！ もうすっかり夏だ。急に夏になって、五月一日にあんなにうすら寒かったことを信じられぬ。アホートヌイへ行つて見ると、オレンジ色の日傘で日やけどめをしつつ歩いてる女もある。まるで暑い、だが愉快だ。

夜ソコーリスキーのリトクルジョークへ出かけた。ここは相当皆自信があつて、議論は盛だ。が、どうも本ものの仕事の方は大したことない。ここは自治的にやつてゐる。詩、五年計画「トルクシブ」「コオペラチーブ」テーマを大きくつかんで空もれさして居る。かえりに長く歩きルコボさん送つて来た。

五月二十三日 金

朝ねむくて閉口のところ八時に起き、十一時頃 BOKC へゆき、クラスナヤ・ローザ（絵織一部染）工場を見た。凡そ二時間半。クラブ「集会所」、ヤースリ等。二人ぎりではないのでどうもクラスナヤ・ニートカ「工場の名か？」のときとはまるで工合が違い、

自分変だった。ディレクターという男、エコノミストといういやな男、一見いやな男、工場の内庭のリンゴの花。そこをとんでゆく白に赤プラトークの女。菩ダイ樹の新緑、西洋桜の花。水たまりに青い新緑。そこへ時々驟雨が来る。雷、リンゴの花。

○五年計画で力を入れて居てクラブの教化事業は大して認められぬ、ためにだれぎみの由。

○ヤースリが子供のはしかで五〇人になつてゐる。が、病氣した子の母は働もあり、どうしてやつて行くか、最も困つたときの助け不十分だと思う。一般的に。

クラブライオンヌイ・クラブ「地区クラブ」にしてチレンスキー「会員制」ではなくなつて来た。

五月二十三日夜八時半に作家クラブでリビデインスキーの「英雄の誕生」についての討論会があるので出かけた中止。これはラップが主催で、主としてリビデインスキーのテクニクのことを云うと云つて居た。それがやかましく云われて居たので今日は開かなかつたのだろう。

ブルバールではかりやを見つけられずではかった。日本にすると、自分十六貫五百、

Y十三貫五百という位だ。

五月二十四日 土

朝プレ。

袋さん一寸よって喋って煙草すってった。

メジユナロードヌイ「外国図書を扱う本屋」へ行き久しぶりで英語のものかった。Yも買もの。

オリガさん。о б е д。夜まで居る。夜涼し。きれいだ。べこ頭いたし。

五月二十五日 日

クローシンという役者が切符をまいてマールイ劇場スタジオで「罪なき罪人」の最終舞台稽古を見た。このカントク若いくせに変な早がわりやドロドロをつかって腹が立ったが、女主人をした女優、古風だが重みあり真実もあり。なかなかいい女優だ。これのおかげでなかなかよかった。クローシンは仕方がない。心持を体の外の方にとぼしちまってやっている。一生大した役者にはなれず。

五月二十六日 月

今朝小学校を見にゆく筈のところ、二人とも腸の工合わるく、やめ。BOOKへ電話かけてやめる。

K・Aの本屋へ行く。

夜八時から、オソアビアヒム〔国防飛行化学建設後援会〕のクラブのリトクルジョーク、今日はカラーエワが創作的会話をするという日なり。

「事実をそのまま書いてもちつとも芸術にはならない、その現象の来る社会的理由までしなくてはならぬ」

「現実の実際と芸術の実際とは違う」等。それから「テーマはいきなりとびこんではこない。きれいな鳥をつかまえて机の上において、ソラここにテーマがある。そんなものではない。テーマに自分を準備しなくてはいけない。長い時間をかけて集める」等。理屈から話し、Ⅱつまりここでこうして我々が話してる、それを現実的実際と芸術的実際の上から話すというような直感的な教えかたでない。それから自分の今書いてるものについてそのテーマのヒントを得たヴォルガの上での或男の話、主人公の建築家の話、それに興味をも

った自分がイジャーシチヌイ・ムゼイ「美術博物館」に行つて三カ月建築の勉強をした話、人物をつくつてく（頭で）道Ⅱつまりその建築家がクラシック愛好家で、（ルネッサンスもゴシックもカラワーエワによつて一緒に愛させられる）ロマン・ローランやガンジの愛好者である建築家と、それからテクニックを利用してソヴェートに活かす、それと対照となる若いプロレタリア出の建築家Ⅱその男は外国へ行つて過去の建築の美も理解するが、ゴシックの塔を見て「我々にこんなものは云々」とプロレタリア・マルクシストの芸術家らしくない批評を云い、云々という人間。

○それからもう一人まるでしようない建築家と。等々の組合せについて彼女云うが、話しはちつともききてに芸術を理解させず、コンムニストしか感じさせない。——つまりリトクルジョークに来てゐる人間の鋭くしたがつてるところ、みがきたがつてるところを磨く役には立たぬ。

一人の男が、これに対し、作者自身三カ月も勉強したような作を書いて労働者にわかるか、第一、題からしてわからぬ、そんな作が誰のためか？ と云つた。

するとカラワーエワは、第一、お前はプロレタリアートの力をケイベツして居る。スタンカ「スタンキ、工作機械のことだろう」に四年立つて居る男がヘーゲルをよんでそれに

ついて書いてる。バルザックをよむ。トルストイをよむ。何故トルストイの「戦争と平和」が面白いかと云つたら、哲学があると云つた。我々はБЫТだけ小さい今日のБЫТだけ書いて居るべきではない。哲学Ⅱプシコ・イデオロギーがいる。それを労働者は要求して居るのだ。云々と云つた。然しこれは彼女のペダンとは別のものだ。

○カラワーエワ、2年に党に入つたんだ、今三十五六歳、党のちゃんとした働き手なら、何故労働者が或点をついた質問をしたりする時、肱でちよいとわきのトマシエフスカヤをつついたり、眼で合図したりするのか！ イヤナ奴だ。

タバコの（モツセルプロムの）露店、どこもしまつてしまった。白エプロンの女の姿町になし。売るものがないのだ。

五月二十七日 火

今日はBOKC。手紙とり。ゲルツェン。夜心持よく勉強。夜がよし、夜がよし、夜だけよい。

この頃エリセーフの店までがらがらだ。シガレットもなくなり葉巻、菓子など一つもない。空の^{から}ガラス皿が暑い日を反射させてる。スープ肉なし。

○キオスク「売店」でベーコンを買ったら、爺、高い価なのでいやにこそそして小声で云って、いそいで金をかきとつて五哥少くても、まだもうけるから平気だ。

○『女芸』の五月 N・Tの小説、彼女が観念でプロレタリアを把握して居るところ、観念で光景をつくるところ、これがやまぬと小説はかけぬ。しんからの小説は書けぬ。

五月二十八日 水

BOKCへ行ってから、散々ひどい埃の中を歩いて第一実験研究所附属小学校を見に行く。今日はもう一年のおしまいの日だという。七歳で入学した子供が一年すまして、来年は一年生になる。主としてその組を見た。短かく時間を区切っているいろいろの作業を十分十五分とやる。決して三十分もつづかず。いろいろに働かし、主としてこの小さい組では訓練と頭脳の多方面な活動性をつけて居る。子供たち、日本字で一人一人名を書いてやったら、よろこんで大さわぎした。二十三四人のうち教師、勤め人の子供は一人ずつ。あとは労働者の子だ。二年、三年、四年と見る。四年では「自然と人間」とのプログラムで、天文をやって居た。教師が説明し、本を皆でよみ、あとからその知識を綜合して画を描き字をかき、一つまとめた手帖をつくる。つまり知識をはつきり彼等のものとして再現さ

せるのだ。これは非常にオリジナリテイリの養成によい。

五月二十九日 木

学校へ又出かけた。そして0年生が幼稚園からお客をするのを見物した。^{ゼロ}初め、「子供が来たら、どんな順序でやろう？　どの唱歌をうたおう？」教師が訊く。すると、子供がどれとこれがよいという。それから詩をよんでやろう、何がいい？

「チツチリ！」「キタイチョーノク！」ではそれをおさらいしよう。そしてそれを復習し、では一人ずつで詩をよむのは誰か？　一人の男の子が出て「赤い鷲」という飛行機の詩をよんだ。それから、「じゃあ一番おしまいには何でおしまいにしよう？　何のうたをうたおう？　みんな知って居るので——インテルナショナル〔インターナショナル〕！　そうそう。」これは昨日の仕事だった。今日はおはなしは何をよんでやるかという相談で、教師が子供によんでやったもの二つを又よみ、中から選ばせた。犬の話がよいと決議する——つまりすべて子供の組織力を主としてやって行く。そして復習と社会的作業——自分より小さい幼稚園の子供をお客にすると云う——とを結びつけたところアクティブだ。非常にアクティブにやって居る。

○0年生の子供^{ゼロ}ばかりある中に、男の子、飛行家になりたいというの四人、赤軍一人、技師（一人）、工場労働（数人）、シヨツフヨール「運転手」（数人）。

女の子には物売り（一人）、教師（一）、看護婦（一）、監獄看守（オフクロがそうなのだ）（一人）、工場労働（数人）という割合だ、七八歳の子供が女の子でも何になりたいたいということをこの位まで——労働と結びつけて考えると、自分面白いと思った。

五月三十日 金

今日もおなかの工合わるしと云つて一日就床。おかゆを煮た。自分めがねの工合わるくて早くつかれ閉口す。今日はセルプ・イ・モロトの日だがY工合わるいのでやすみ。

オリガさん来。いろんな話をした。チストカのこと。プロティフ・ビュロクラティズム「官僚主義反対」のこと。アボルト「墮胎」のこと。現在ではモスクワの住宅難が結婚アボルトを支配して居るような形だ。避妊用具は金がかかるし、確実でない。学生はただでやってくれる。ストローワヤの問題。この問題、ソヴェトの大問題だ。衛生問題として。モラルの問題から解放したのはソヴェトの大功績だが、衛生の問題としてまだ充分解決されては居ない。男が性的交渉に於て具体的な責任をもたぬ。アボルトすりやいいじゃあ

ないかといった風な傾。

五月三十一日 土

もう、モヤ全快、一日休んで元気になつて。それにこの頃天気わるくなつて涼しい。大して日が当らぬ。まぼしくもないので大いに落付けるというわけなり。

革命劇場へ出かけてきたらレーニングラードのトラム今日があるので自分一人出かけた。 дружная горка 「親しい小山の意」というコンムーナ〔コンミューン〕のコムソモールとコムソモルカの生活を描いたオペレッタだ。オペレッタと云つても、青襯衣のようなフィジクリトーラ「体操」や踊を入れたもので、筋はマルク、ジーナの二人の恋にからんでグリーシャ（ややチャップリン型）、プラニエリスト・レシユカ〔グライダー飛行士レシユカ〕のからみ合い、つまり健康な恋愛万歳だが、面白い。第一見物がまるで□が違つて面白い。

Y、ゴリキーの翻訳はじめた。

六月一日 日

起きて暫くして、プログラムを見たら今日のマチネーに小劇場で「家のもの、勘定しよう！」があるので急に出かけた。寒い、Y、さむがってさわいだ。Bank から金 300 p 出した。

芝居が、ガラ空き。ペルテール「平間席」だけに人が居る。大して面白い脚本でもない。かえりにサラダ「サラダ」をかってかえる。

又戸の鍵がこわれてる。フクロさん来。おなかをわるくして一週間ろくにのまずくわずの由。夜又来了。御飯をたいてたべさせた。工合よくなつた由。元気になって十二時頃かえつた。

ボリクリニクで眼を見て貰ったら、只眼鏡の度が合わないだけだという。女医、オスロジュニエニエ「余病」がありはしないかと云うとまぶたを引くるかえして見て大丈夫という。暗室も何もなし。

六月二日 月

室代をはらいにカントーラに居たら、女の人、食堂のコムソモールカと話してゐる。1753

3 p — 11日?

それは昨日の売上げだから一日と書いて下さい、それだけでいいんです。

——私党员になりたい。

——どうして入らないんです？

——……どう始めていいか判らない——ニエ、ズナーユ、カーク、ナチャーチ（「どう始めていいか判らない」の露訳）

——話しすりやいいんですよ、喜びますよ。

——あんたコムソモールカ？

——ええ。ゴールニーチナヤ〔女中〕になれってったんだがことわって台所にのこってるんです。

それから受取りにサインさせ乍ら

——お金をすつかりとられちゃった。

——どこで？ 家で。……主婦さんがセゾンニク〔季節労働者〕に室をかしたんですよ。きつとそれだ、一年居て何もなかったんだから……十五哥で食べられる。モージュノ、イエスチ〔食べられるか〕？

夜、ライオンヌイ・リトクルジョーク〔地区文学サークル〕へ行った。オクチャーブリ

の編輯をして居る男が来て居ていろんな質問や、クルジョークの組織に関する話をやった。今日リテラツールナヤ・ガゼートにレーニングラードのクルジョークは非常にアクティブで、却つてモスクワの方がそうでないことが出て居たばかりだ。質問その応答、きいていたためになった。英雄の誕生がやっぱり問題にされたが、自分これがテクニクの上で進んだという点、もつとはつきりしりたい。つまりリビデインスキー個人としての進みか、プ文全線上に一步進んだのか。

○オクチャーブリから来た男、質問を片はじから書きつけてあとから皆答える。これはよい。こうすべきだ。

このクルジョークがわるいことは、指導者しつかりして居ないので子供にはびこられて秩序立つた研究もしてない。

芸術の弁証法的手法。

モスクワ・オーブラスチナヤ・コンフェレンチア〔モスクワ州代表者会議〕。寒い。タバコのキオスクの前に百数十人の列、デリーを貰うために。きのうからアホートヌイ・リヤードの市場が第一市場に合併された。

K・Mの本やに支那語で B c e 「すべて」を書いたアンドンが立って居る。

六月三日 火

オリガさんがソチへ行く、朝十時四十五分。Y、バカバカしいソチまで行くのに（一ヵ月）送って貰ったりしてさわぐ奴があるかといつて行かず。自分だけ行ったら、汽車の故障で五時間おくれる由。大笑い。自分家へかえる。

今日こそ作家クラブでリビデインスキーの討論があるというので出かけたら、何もありません。ライリトクル「地区文学サークルの略」の連中が来て居るのに会った。女の人、今はどこにも勤めても働いても居ないで文芸的仕事だけして居る由、もう一人脚のわるいのは小学教師で、変名で書いてる由、ここはだからひよっこが多いのだ、とにかく。そして労働者ではない。その点オソアビアヒムともセルプ・イ・モロトとも違う。

アルバートの活動で土を見た。これに異論のあるのは尤もだ。ディアレクティブに批評すると土の勝利ということになってしまう。

ここでは相当大きいオーケストラがあつて四流五流ながらヴェートウヴェンの第九をやつて居た。

六月四日 水

川谷さんのところへ一寸よった。勉強もして来た。かえったら袋さん来てる。この人は面白い。一緒に食事、今日キノの会があるのでいそいでかえり、夜M・X・A・T第二でチュダークを見る。これは党員でないインテリゲンチヤの二つのタイプを書いたものだ。「プラチー、チレンスキー・ウズノース〔党費を払え〕。ラボータイ、イ、モルチー〔だまって働け〕！」「ベスパルチーヌイ・エンツージアズム〔非党員の熱狂〕——エト、アパースノ〔これは危険だ〕」

そして、友を売つても立身し技師になろうとする男と、チュダークであるところのエンツジラスト「熱狂家」のインテリ。そこへ、片恋や犬や、ユダヤ女をからませ、党員のタイプではない、感情の動く人間としての関係を挿話とする。ところどころ、甘さあり、犬をかこんで泣かせどころあり、そういうところは念を入れすぎてるが一寸面白い、やはりメンションすべき作だ。これまでのソ脚本の型を破つてる点で。ただ、M・X・A・Tの俳優はこういうものをやると古くて、変に現代であつて現代でない役とのギャップがあつてよくない。

M・X・A・T第二はミチキノ・ツアールストヴォオでも目立って変なギゴチなさがい

つもついてまわってる。

六月五日 木

今朝歌の序文というの書き出した。そして一口に書いたが、書いてると自分が生活して居る間に書いてるときだけ頭をこまかく働かして居ないことがわかって、閉口頓首した。とてもオツチヨコだ。オツチヨコで何かして、あとで明快に批評するため、よろしくない。或人に対して始め斯うだったのに斯うなつたという形をとって現れる。これは最も重大な自分のサモクリチカ「自己批判」の点だ。もう序文はやらぬ。

夜、革命劇場のTPAMをYと見にゆく。湯上りで自分さむく、Yの肩かけをかりてやつとしのいだ。器用の点から云うとブリガード（「作業班」）のカターエフ、ずっと器用にやつてるし、玄人だが、このTPAMのは同じコルホーズをあつかっても、もつと集団的で内へ入って、セルコル「農村通信員」とクラーク「富農」との関係、百姓の中にある二つの種類、村の百姓とトラクトセントル（トラクター・センター）との対立、その争闘的雰囲気「ニエ・スプラヴェドリ・ヴィ（なんて不公平なんだ）」と泣くコムソモルカ等、勿論工場と農村との結合はあつて、多くのものを自分に教えた。「工場中にある

am. コルホーズの分子が、ウダールニクをころす、村ではスレドニヤク〔中農〕のコムソモールがベドニヤーク〔貧農〕でエンスデアステイツクな若者を殺す。」

このツエリーナばかりでない、ブリガードでも犠牲者を出して居る。どれでも出してる。「土」でさえ出してる！ これは本当の闘争だ。恐しい農村の十月だ。

六月七日 土

洗濯やへものをもって行く。

夜赤衛軍中央会館で「何が彼女をそうさせたか」の試写があるので、袋さんと三人で出かけた。

フィルム、大してよいと思わぬ。いろいろはつきりせぬ。第一、反抗するまでの心情は筋をたどつてあるとしても、それがきわめて組織されず、個人の意趣晴らしに止るところ、現代の日本のプロレタリアの反抗精神とは違う。テクニクもよくない。同じ場面のくりかえし多し。

ソヴェートでは曲芸の極めて非衛生的なものをやめさせる必要がある。例えば歯で人間一人つり上げたりする芸当。美しくもないし、健康でもない、ただ人間のブルータルなど

ころを写してるだけだ。

キノの後、ブツフェで御馳走になり、あとパークを散歩して、野外劇場で曲芸みたいなものをみた。フィジクリトーラと称す。

六月八日 日

○今日どこをさがしてもアルコールはなし。

○ラフカの爺、この頃アホートヌイがなくなつたので買い手が殖え、よろこんで笑顔しつつ売ってる。

ハム二百瓦二・四〇の中、六十哥が税、九十哥が原価であとのあまりでそうして食いのめるか？ だつてさ。

夜五年計画のことを書くようにいろいろして居るうち、ふと気がのつてふらふらどうなるか分らぬものを書き出した。

六月九日 月

○仕事。

夜、オペラを近藤さんによばれる。ロッジにいろんな連中が来て居る。

ローヘングリン。

オペラというものは退屈なものなり。

六月十日 火

仕事して居ると、ガウズネルが寺島さんをつれて来た。

夜、Н а ш а М о л о д о с т ь を М ・ X ・ A ・ T の小舞台でみる。四幕。革命時代の若き党员がハバロフスクへ潜行運動に出かける。日本円で一万円わたされて。途中でパルチザンが入つて来る。のり合わせた娘をひどいことしようとしたことから二人の若きものの対抗になり、雪の野に放ほうり出される。馬檻でハバロフスクへ行こうとする、御者きかない。そりに金とドクメント「書類」がかくしてある。白兵が出て来る。御者が白にこびる、白から銃をうばい、追っぱらい、御者をころす。白が来る。追射され、若者が足を負傷し、娘の親父のところドクトルで片脚切られ、もう党の働きは出来ぬ。それで終にビラはりをして居るところを白に見つかり、立ち廻り、射殺される。――

心理的ないろんな細部、若いその時代の人間のユーモア、真実、なかなかよい見ごたえ

ある上演だった。

六月十二日 木

○BOKCへ寺島さんをつれてゆき、美術のことに關してきいた。

○暑い。夏になった。

○仕事。

○今日からタバコがLux Delu等、ホテルの下卓子、BOKCの玄関にも出て居る。

○バター

六月十三日 金

○仕事。

○夜六時すぎから24にのつかつて、モスクワ河の鉄橋までゆきそれから——M・Γ・Y〔モスクワ大学〕の寄宿舎の前を通つてサード・クリトールイ・H・オードイハ〔文化と休養の園〕へ行つた。こっちは森が多く、河への見晴し美しい。段々ゆくと広場で芝居がある。多勢の若いものが群れて目かくしをし、片手の掌を脇の下へ出したのを誰が叩い

たか当てつこをする遊びをやったり、帽子はたき落しつこをしたり、金はつかわず愉快に遊んで居る。いろんなΓΟΡΟΔΟΚ〔棒投げ遊び〕があつて、体育のところでは音楽をやり、指揮者が台に立つて大きな集団遊戲をやつてゐる。ガルモシユカで踊つてゐるのもある。ここは若いものが多く、実に遊び上手に遊んで、さっぱり楽しんで居る。いい心持だつた。自分、その大きな輪踊りの中へ入つて踊らず、Ｙ、早くかえりたがつてヤイヤイ云うの随分残念だつた。

六月十四日 土

○暑くなつた。仕事、あついが仕事は調子がついた。これをとぎらさずにやるとなかなか書けるぞ。

○夜不意にキムと笑子がやつて来た。エミ子、みどり色のキモノで活々きれいに見えた。○それにもました一大事は、日本の俗謡をどこかでグラマフォンにかけて居たことだ。

何だか日本みたいな夏の夕方だと思つて居たら本当にそんなものをやつて居る。びっくりして、Ｙ、窓によじのぼり見当をつけに外をのぞいた。どこか、このホテルの中でやつて居るらしい。

六月十五日 日

なかなか暑し。目の上がはれぼつたい——夕立が来そうで来ぬからだ。

○ルケアーノフへ出かけて、本棚、本の入った樹の箱などもって来た。そして本立を立て、いろいろ室を片づけた。

夜、芝居のことを書いて居るうちにいろいろ面白い問題点を発見して愉快になった。劇についての印象など、やっぱり一年居たとき、二年居たとき、それぞれ切り込む面が違くな。

六月十六日 月

○朝一寸書き出したが気に入らずおやめ。

○シャノアールで一人キノを見た。トルクメンの綿の生産についてのフィルム面白かった。

○涼しい、風の吹く日だ。が自分何だか落付かず。

六月十七日 火

グルジアの国立ドラマ劇場を見た。やっぱり民族的特長がある。――

筋のカンタンなところ、それから、もって居るリズムが横にのびる線でやっぱりグルジアの自然に似て居るところ、感情表現が顔面表情というより声と手足の動きで主としてやるところ。

第三幕、結婚の祝いの初め、男だけすっかり揃って、花嫁への祝いことば、ほめことばをのべ（アイヌのように）、盃を放って互に交換し、それから唄い、（この合唱なかなかよかった。）一人第一歌手、合唱、半音階、力づよいなかなかユニツクな合唱。

大体主には男がなつてゆくところ、これをヨーロッパ人の女、はだかの女だけ出して見せてゆく芝居と比較すると面白い。

六月十八日 水

あさオスメルキンの家へ一緒に行く。

かえりずつと歩いてバンクによつて、かえつて来たタリトクルジョークの「グラワー」〔指導者〕ΠΟΥΤΑ〔郵便局〕のところから出て来て室へあがり喋った。手に親がモリ

ヤーク「船乗り」だったというかりの入墨がある。万年ペン、時計、その他珍しがって
いじくりながめる。バクトルスキーカーランダーシ「カーランダーシは鉛筆」というのをもつ
て居て（黒）よく皮膚につく。

六月十九日 木

「ロンドン一九二九年」をよんでいろいろ感ず。自分の作を研究して見るのは面白い。こ
こで又一つぬぐべき皮を発見した。横光の文芸時評、まるでひどい。彼の歩んだ道Ⅱあの
上海もの、鳥、そしてこの論文。あんまり公式通りにゆくので恐ろしくて、きまりわるく
て、汗が出るぐらいだ。

六月二十日 金

今日やっとモスクワ河のあっち側へ越して行つたが、室には椅子も卓子もなくて、いき
なり bed と窓枠を利用して暮して居たというのにはびっくりした。それで 3P は法外だ。

夕方、鞆をもって出てゆく、かわいそうなところもある。が、ここそうそう三人では暮
されず、やむを得ない。が、ひどい！ モスクワにおっこつて居る生活の歪んだ一つの破

片！

クスターリヌイ「手芸品屋」に二人でよつて、パン入れざるとしやくしを買った。
袋君かえつて来て、キエフへ行つた。

六月二十一日 土

○仕事。

・玉子一つニクになった。この間はニクだった。

・今日コムナールへ行つたら、酒類の棚がガラ空きになって居た。

○モスクワでは散歩の犬がわりに二人の間に買物袋をぶらさげて歩く。

○アメリカの自動車業は四百万人の労働者をつかつてる。

○アメリカで関税 5% 引上げ議案が十七カ月研究の後アメリカンハウス・オヴ・リブリゼンテーティブを通つた。二十以上の政府がこれに反対をとえ、市場競争をいよいよ熾烈にすることになった。

○アメリカとイギリスの市場争奪「ダンピング」

○アメリカは輸出国となろうとして居る。

○市場の分譲はさんで居る。アメリカは力ずくだ。

六月二十二日 日

べこ、仕事。

本を送り出す。三冊。

ウズベクスキー「ウズベク人」の芝居を見た。トルキスタンは綿の産地だ。その綿にか
らむ白、赤、コルホーズを主としたものだが、まるで芝居としてはなつて居ず。音楽的な
ところ、抒情的なところ、まだ表現されず非常にかわいてディキ「粗野な」で、いかに
も地方色をあらわして居る。脚本は、綿の宣伝のためにコンクルス「コンクール」をやつ
て当つたものだそう。題「綿花の敵」。イデオロギー的に構成がよくない。コンムニス
トが孤立して、ベドニヤークとの結合も何もないところ。

六月二十三日 月

ひるふいに思いがけず入つて来た。

午後急に思い立ってダーチャーへ行つた。

ダーチャーというものの初めて知って、のん気で休むに適當なのでびっくりした。

六月二十四日 火

夕方、クラスコーポからかえって来た。紫外線をすって体が軽くなったような気がする。みんな休みの前日から休みにかけて出かけるわけだ。

夜、来、いろいろ話した。

六月二十五日 水

どうも工合がわるい。すっかり食欲を失って何もたべられず。横っぱらなり。

Yと一日はなす。

六月二十六日 木

今日は一日閉口。湯たんぷを当ててぶらぶらしてしまった。

Y、お米をとって来た。

Yも工合が大してよくない。

六月二十七日 金

今日はまでよい。

勉強。

六月二十八日 土

べこ、仕事、勉強。

小包送った。

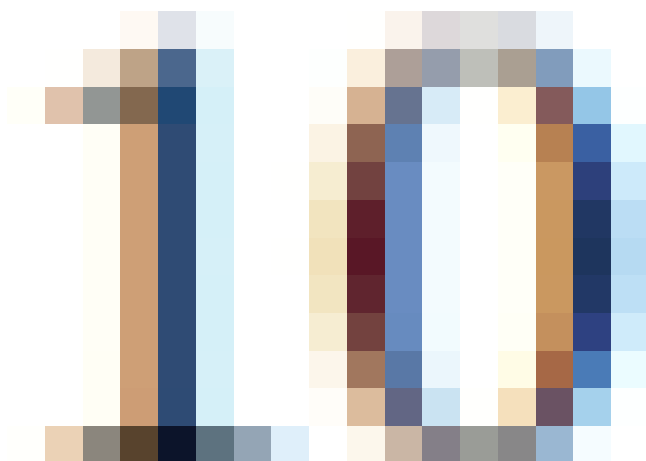
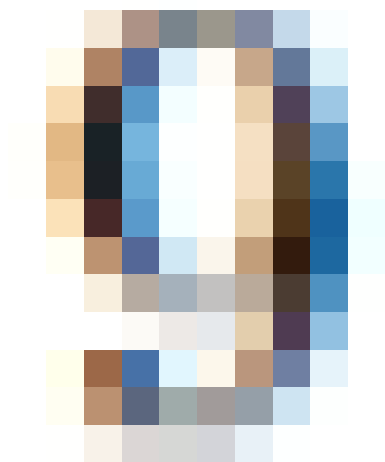
本ややすみ。ゴスイズダートで本を買った。

この頃oredはちゃんとたべず。かゆばかりたべてる。

六月二十九日 日

べこ少し仕事。勉強。

今日からお湯がタダになった。



この頃ずっと家にばかり入って暮して居るので、何だか外界と遠いようなボーツとした心持になった。それに日本勉強したので。居る段階が違う。まるで違う。そのため、何だかここで見るものがボーとなるような感じだ。

六月三十日 月

ドーム・ゲルツェンへ出かけたら今日はウイホドヌイ・デーニ〔休日〕だ。
かえりに歩いて来て、玉子買って、パン買って、かえった。

ドイツ労働者がここへ来て居ると、そう大して感心しないところ面白い。つまり
ロシアより文明が進んで居ると云う先入感をもってるのだ。

七月一日 火

夜更よふかしして五時頃ねたので、おきたのは迎もおそかった。

それから出かけて三人で。Yはルイノク、自分とT、アフル〔革命ロシア芸術家協会〕
へ出かけた。ずっと歩いてかえって来て、家でアヴェードたべた。夜、又出かけて桜木さ
んのところへゆく。かえったら又用があつて十一時頃までかかった。

もう何も食べず眠るつもりのところ、おなかすかしてねぎを煮てたべた。二時頃眠った。

七月二日 水

クスターリヌイで買もの（麻にぬいのある服地、テーブルかけ等）
ずいぶん歩いた。

Y、おこめと金の方にまわった。

自分かえって仕事。

銀行から150 p 出した。

Y、川谷さんより1000 p

仕事わたす。出かけた。

七月三日 木

雨。ふつたりやんだりしている。

宮嶋資夫と江口の小説をよみ、初期のプロレタリアート文学について面白い多くのもの

を感じた。

作家としては江口より宮嶋の方沈潜力をもっている。が、丁度単細胞の動物みたいで骨格がない。これは致命的欠カン、僧になったユエンなり。江口の方は感情の激昂性で、それでプロレタリアート運動に入ってる。

七月四日 金

ピオニエール研究のため、あっちこっち歩いて本をあつめた。

この頃第十六回全ソユーズ〔ソ連邦〕の党大会があつて、Y一日殆ど新聞をはなさぬ。スターリンのドクラードは、資本主義国家の経済クリシスとソヴェート社会主義の建設とを、はつきりハあくして示し、嘗又プラーヴィイ・ウクローン〔右翼的偏向〕に対して皮肉にやつてる、「プラーヴィイ・ウクローンはあついのに綿入外套をきて寒くなるのを心配してる者みたいだ」等。

七月五日 土

B O K C へ行って、ラゲリ〔ピオニエールのキャンプ〕を見ることをたのんで来た。

メシヨーチクまだハリコフだつて！

本当か。

Y、理髪に出かけたが、なかなかかえらず心配した。今日、南京虫よけの薬をまいた。南京虫よけ薬がプンプン匂つて、頭がいたくなるような中で、Yと大いにプラーヴィ・ウクローンに対するスターリンのやりかたを論じ、Yは自分をいろいろな言葉で罵った。しかし自分間違っているとは信ぜぬ。

七月六日 日

南京虫が出ないのでY、よく眠つたと見えて、丸い顔してキゲンよろしい。

自分の利害のために、よく南京虫を退治して貰わなけりやあならないな。

秀雄さんからデン報。無事だったのだ。

トムスキーのドクラードが今日はあつた。

彼はオーシーブカ「あやまり」を認めては居る。党の前に頭を下げてる。

「ただ、いつも悔いたるものとしてあつかわれるのはやや苦痛だ」

「自分たちが党にあやまつてもプラーヴィ・ウクローンを出した客観的事情がある限り、

このウクローンはある——一オー尤もで現在の状態に対しては果して正鵠を得て居るか？

七月七日 月

ピオニエールのラゲリに出かけようとしてBOKCまで手紙をとりに出かけたが、雨がふりかけで天気はつきりしないからYやめようという。やめて、アホートヌイのころのIIKΦOTO〔写真屋〕で写真を撮った。

一日雨ふるみならず。夜になって又ひどくふつて来た。

日本勉強

○労働組合法案

○小作法案について、

キャピタリズムの国の教育家の位置。

ブハーリンの修正派の見解に対する批評。

この頃こういうものばかり故、小説のよいのがよみたい。

七月八日 火

出かけてステーションまで行ったのに、おそくなったと云って戻ってしまった。途中で夕立。

それからブラブラ歩いて河岸へ出て、トレチャコフスキーへ行こうとしたら、何だかゆきすぎてしまつて向うの橋まで出てしまった。はらは空く、かえる。

今日は大体工合のわるい日で、何をしてもよいことなし。

すっかりガタガタだ。自分Yに腹を立て、Yは自分にハラを立て、いやな日だった。

七月九日 水

「ラーゲリ・バウマニエツ」へ出かけて、十二時頃から夜七時頃までぶらついた。なかなか景色のよいところに、ダーチャーが散在して居る。池がある。シュタブ〔本部〕の前に高い旗柱が立つてる。バラックの大食堂がある。五百五十人からの子供が、そこで指導者と一緒にものをたべる。みんなはだした。そして、殆ど裸で実に愉快そうにやっている。集団生活と規律ある生活の経験のために、大体遊びが主だ。

広大な土地に五百人の子供、きわめてパラリとして居る。コムソモールとコムソモール

カの指導者は、大体ふだん何か別に本職をもってる。コオペラチーフで働いたりプロイズヴォードストヴォ「工場」で働いたり。

七月十日 木

袋君、アバードをたべて居る時来る。四時頃一緒に寺島君と三人で出かけてクスタールヌイでみやげものを買った。それからベコ買物をしてかえり、Y又買ものに出かけ、袋の送別会をやった。

オリガさん、ソチからかえって来たので来る。みんなめんどくさがってちつともロシア語で話さず。ベコだけオリガさんがかりになった。かえってから少しのんきになった。オリガさん二人にそれぞれいいみやげをくれた。只もやにウラル石の置物をくれたが、それがもやに似合わず。

七月十一日 金

ソブキノへ行つて（袋さんと）ルームのバルビユスのものをとったのを見た。なかなか始めの方などよい。大体うまい。アメリカのタンテイ味を大分にとり入れているが、それ

でもアメリカものとはまるで違う本格的な品格あり、カメラのつかいかた、タイトルの入れかた、上手いものだ。その上手さでは、「第三メシチャンスカヤ〔小市民階級〕」をはるかにしのいで居る。ムダのない点も。

○ロームはここでタイトルを一寸くりかえして居る。ホーゼはかえらない。絵、彼はかえらなかった。

タイトルの入れかた。あのソブキノズブコボイ〔音声〕のように Н о Ж и в ё т
 「しかし、生きている」とパツ、パツ、一コマずつぶつける出した或は非常によい。

七月十二日 土

朝、使が来た。

それからハタさんが思いがけず入って来、一緒にグランドホテルへ行ってカンづめを貰った。

ひどい雨にニキーツキーであつて、и з〔辻馬車〕にのつたがずぶぬれ。

袋が立つので送って行ったら松本さんも立つというので、大使館の人一杯。キム夫妻にも会う。袋いつまでも汽車の窓から手を出してふつて居た。Y、昨夜寝らず。原稿をいそ

いで書いたので、つかれ、夜は、ゆつくりして、書く本のことなど相談した。

七月十三日 日

雨。二人一日つぶして、論判やら雨やらをふらした。そして結局べこ、三万円とられる証文をかかされた。

菓子、真赤なピラピラ着物に金の靴をはいて、まるでイン的服装でやって来た。パミール高原へ遠征視察隊に加わって行く由。

夜、つかれたのでM・X・A・Tの横のモルセルプロムにCoffeeをのみに出かけたなら何もなく、ノアールにスハリ「菓子の名」だけ。

七月十四日 月

朝イントーリストへ出かけて、ロストフまでの切符二枚たのむ。出来そうだ。それからパンを買い、家にかえり、обед出かけ、四時から八時すぎまで外に居てかえったらY、居ず。居たたまれなくなつて外へ出て歩きまわつて、サード・クリートルイ・イ・オツドイハで帝国の破片を見て来たのだ。十二時頃かえった。オリガさん、来て居て待つて

